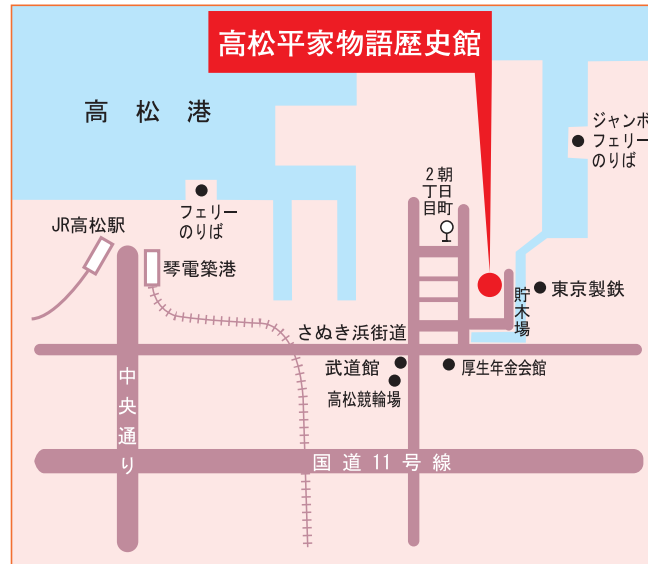




平家物語は、鎌倉時代に成立したといわれる平家の栄華と没落を描いた軍記物語です。物語は全12巻で、大きく分けて3つの柱から構成されています。第1部は、権力を掌中に収めた平清盛を中心とする平家隆盛のありさまで。第2部は、平家討伐の旗揚げをした源頼朝、木曾義仲と平家軍との合戦。そして、第3部は、平家滅亡跡の戦後処理と人間模様についてです。既存の「平家物語」には全12巻の後に物語を締めくくる「かんじょうのまさ 灌頂卷」が1巻加えられています。ここでは壇ノ浦で命を救われた建礼門院に後白河院が大原まで訪ね、昔日の日々を語り合う場面が描かれており、「平家物語」の語り納めとなっています。保元・平治の乱から平家滅亡まではわずか30年、平家一門の栄華ははかなくも短いものだったとか。しかし、平家滅亡のあと鎌倉時代から江戸時代へと武家中心の政治は長く続くことになりました。

そんな源平合戦ゆかりの地、屋島の近くに開館したのが香川県の新しい観光スポット「平家物語歴史館」。単に源平合戦の一コマを捉えるだけにとどまることなく、一つの大きな歴史の流れを知るのに貴重な場です。館内では軍記物の最高傑作といわれる「平家物語」に収められた合戦模様など平家一門が歩んだ発展から滅亡への過程を、ろう人形約260体で全十七景にわたリアルに再現した「目で見る歴史物語」が楽しめます。併設されている「平家物語の女たち」パネル展示では、平家物語の男社会の中で生きることを余儀なくされた13人の女性たちの生きざまが、小説家・永井路子先生の絶妙なタッチで取り上げられています。ろう人形のリアルな表情と歴史の数々に触れることができ、同時にタイムスリップしたかのような臨場感たっぷりのスポットです。



ア ク セ ス	JR高松駅より車で約15分 高松自動車道・高松中央ICより車で約15分 (さぬき浜街道・厚生年金会館・北入る) ことでんバス朝日町線・朝日町2丁目下車約3分
営 業 時 間	午前9時～午後5時30分
駐 車 場	無料大駐車場完備
休 館 日	年末年始
入 館 料	大人1,200円・中高生800円・小学生600円
団 体 割 引	あり

高松平家物語歴史館

〒000-0000 香川県高松市朝日町3丁目6番38号
TEL 087-823-8400 FAX 087-823-8837
<http://www.heike-rekishikan.jp/>

八百年彼方の歴史絵巻が
現代に甦る……。

高松 平家物語歴史館

日本最大のろう人形館

今よみがえる、平家・栄枯盛衰の歴史絵馬。

平家物語に収められた合戦模様などの歴史の一場面を、約260体のろう人形使って復元した「目で見える歴史物語」。表情豊かなろう人形は、当時の様子を今によみがえらせています。全十七景の場面を観ていきながら、平家一門の歴史と文化をたどることでしか味わえない体験。



第十七景「琵琶法師（ロボット）」

物悲しい琵琶の音色と感情あふれる巧妙な語り口。平家物語は、琵琶法師の語りを媒体とする特殊な文学として伝承されてきました。室町初期の京都には数百人の琵琶法師がいて、多くの民衆に諸行無常の物語を語り聞かせていたとされています。しかし、その作者や成立年代については諸説があって、現在も確定していないようです。



第十二景「那須与一、扇的を射る」

1185年（寿永4年）2月、義経は讃岐に渡り、背後から屋島を襲撃。驚いた平家軍は、船に乗って海へ逃げましたが、源氏軍が少数と知って応戦し激しい戦いとなりました。戦いが一段落したころ、さおに扇を立てた小舟が海上に出現。義経の命令を受けた弓の能手・那須は、扇を見事に射落とし、この様子をじっと見守っていた源平両軍は歓声をあげて与一をほめたたえました。



第十三景「安徳天皇、入水」

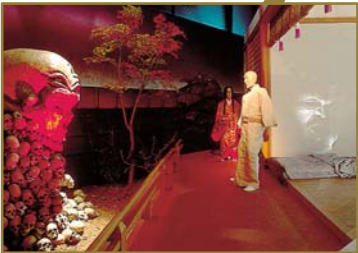
屋島の合戦に破れた平家は、瀬戸内海を西へと逃れ、関門海峡近くの彦島に水軍を結集しました。1185年（元暦2年）3月24日早朝、いよいよ壇の浦で最後の決戦がきつておとされました。最初は、平家が優勢でしたが、四国・九州から集めた豪族達が源氏へ寝返り潮流に乗った源氏の攻撃に、平家軍は壊滅状態。

幼い安徳天皇は二位尼とともに海に身を投げ果てたのでした。



第二景「平家にあらずんば人にあらず」

平家の棟梁・平清盛は、保元・平治の乱での目覚ましい出世により平治の乱からわずか8年で、ヒラの参議から太政大臣という最高の位に昇りました。同時に平家一門の人々も高位高官に就き、武力をもって好き勝手に振る舞っていたとか。安芸の国など30数カ国の国守となり、全国の半分以上を支配していたため、世はまさに平家一門のものとなりました。



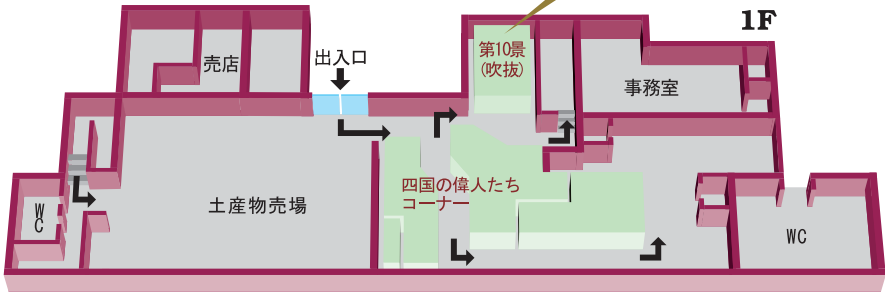
第六景「怪物（もののけ）」

1180年（治承4年）6月、清盛は福原への都移しを断行しました。それからというもの、彼の寢室の壁に恐ろしい大顔が出現したり、庭に見えた無数のどくろが固まりあって、一つの巨大などくろになったり、奇怪なことがたびたび起こるようになったとか。都の人々はこれらを今までの悪行の報いで、平家滅亡の前兆ではないかとうわさしあっていたようです。

第十景「一ノ谷の合戦」

1183年（寿永2年）、木曾義仲の軍勢が都に迫り、平家は幼少の安徳天皇を従えて都を去りました。九州・太宰府を経て讃岐国屋島まで逃れた平家は、やがて福原に戻り、一ノ谷に堅固な城砦（じょうざい）を築いて、多くの軍勢を集めました。

翌年、源氏は一ノ谷の攻撃を開始。平家も必死に防戦しましたが、総崩れとなり再び屋島へ落ち延びてきました。



併設／四国の偉人たち

四国が生んだ偉人・著名人が勢ぞろい！

俳人・正岡子規や作家・菊池寛、幕末坂本龍馬など、四国出身の偉人や著名人のろう人形が一堂に並びます。その精度は、思わず握手したくなるほどリアル。ろう人形の前にはそれぞれの紹介文がありますが、まるで彼らが語りかけているかのよう。各界の偉人・著名人をあなたは何人知っているのか、当てながら観ていくのも楽しみ方の一つです。



特別展示 空海（弘法大師）

政治・社会

- | | |
|----|--------------|
| 大平 | 正芳（政治家） |
| 西尾 | 末広（政治家） |
| 三木 | 武吉（政治家） |
| 平井 | 太郎（政治家） |
| 成田 | 知己（政治家） |
| 板垣 | 退助（政治家） |
| 吉田 | 茂（政治家） |
| 三木 | 武夫（政治家） |
| 浜口 | 雄幸（政治家） |
| 秋山 | 真之（軍人） |
| 山下 | 奉文（軍人） |
| 坂本 | 龍馬（幕末志士） |
| 中岡 | 慎太郎（幕末志士） |
| 松平 | 頼寿（伯爵・貴族院議長） |

文化人・学者

- | | |
|----|----------|
| 正岡 | 子規（俳人） |
| 高浜 | 虚子（俳人） |
| 安部 | 能成（学者） |
| 菊池 | 寛（小説家） |
| 南原 | 繁（東大総長） |
| 猪熊 | 弦一郎（画家） |
| 寺田 | 寅彦（学者） |
| 牧野 | 富太郎（学者） |
| 安岡 | 章太郎（小説家） |

スポーツ・芸能

- | | |
|----|----------|
| 藤田 | 元司（プロ野球） |
| 水原 | 茂（プロ野球） |
| 中西 | 太（プロ野球） |
| 笠置 | シヅ子（歌手） |
| 武原 | はん（舞踏家） |

その他

- | | |
|----|-------------|
| 真鍋 | 博（イラストレーター） |
| 二宮 | 忠八（発明家） |
| 大社 | 義規（実業家） |
| 賀川 | 豊彦（実業家） |
| 中江 | 兆民（思想家） |
| 幸徳 | 秋水（思想家） |
| 原 | 安三郎（実業家） |
| 岩崎 | 弥太郎（実業家） |
| 中浜 | 万次郎（幕末） |
| 横山 | 隆一（漫画家） |
| モラ | エス（文人） |



板垣退助（政治家）

大平正芳（政治家）

坂本龍馬（幕末志士）